

[プラスチック・ゴム関連]

小樽市

小樽ものづくりの原動



北海道小樽市

発刊にあたって



小樽市長 山田 勝磨

北海道開拓の拠点の一つとして先駆的な役割を果たしてきた小樽市には、高い技術力を持ち、新技術・新製品の開発に意欲的に取り組む多くの「ものづくり企業」が集積しており、本市産業の一翼を担っておりますが、昨年来の世界的な不況の影響を受け、本市地場企業を取り巻く経済環境は、厳しい状況が続いております。

こうした中、本市におきましては、ものづくり産業の活性化を図るため、新たなビジネスチャンスの拡大や企業連携を促進することが重要であると考えております。

昨年11月に、小樽市内の機械・金属関連の企業を広く情報発信するための冊子「小樽ものづくりの原動【機械・金属関連】」を発刊したところですが、本年度は、北海道経済において大きな役割を担っている農水産業・食品産業向けの包装資材や、土木・建築用資材などに幅広く使われているプラスチック製品、さらには北国ならではの長靴をはじめとするゴム製品などについて、市内の企業が有する技術や製品を紹介する「小樽ものづくりの原動【プラスチック・ゴム関連】」を発刊することといたしました。

この冊子が、市内「ものづくり企業」の道内外への新たな市場開拓とビジネスマッチングの一助となり、地場企業の発展や雇用機会の拡大など本市経済の活性化につながることを期待いたします。

平成21年11月

小樽ものづくりの原動

〔プラスチック・ゴム関連〕

C O N T E N T S

■ 目 次

■ ものづくりMAP	P1
------------------	----

■ 企業紹介

01 P3 北一化学株式会社	08 P10 北海紙工業株式会社	15 P17 第一ゴム株式会社
02 P4 合同化成株式会社	09 P11 協和商事株式会社	16 P18 第一化工株式会社
03 P5 日ポリ化工株式会社 小樽工場	10 P12 株式会社北斗ゴム製作所	17 P19 株式会社ミツウマ
04 P6 株式会社アグリバイオインダストリ 銭函プラント	11 P13 東洋化工株式会社	18 P20 クリロン化成株式会社 北海道事業所
05 P7 玉井化成株式会社	12 P14 極東高分子株式会社	19 P21 有限会社テクノ・プロス
06 P8 玉井環境システム株式会社	13 P15 サンビーム工業株式会社	20 P22 株式会社フジ本芳川商会
07 P9 株式会社みちした	14 P16 三王ポリ株式会社	

(順不同)

■ 企業立地のご案内	P23
■ 小樽市のプラスチック・ゴム工業のはじまり	P25
■ 小樽市の製造業の概要	P27
■ ものづくりを支える人材の育成	P28

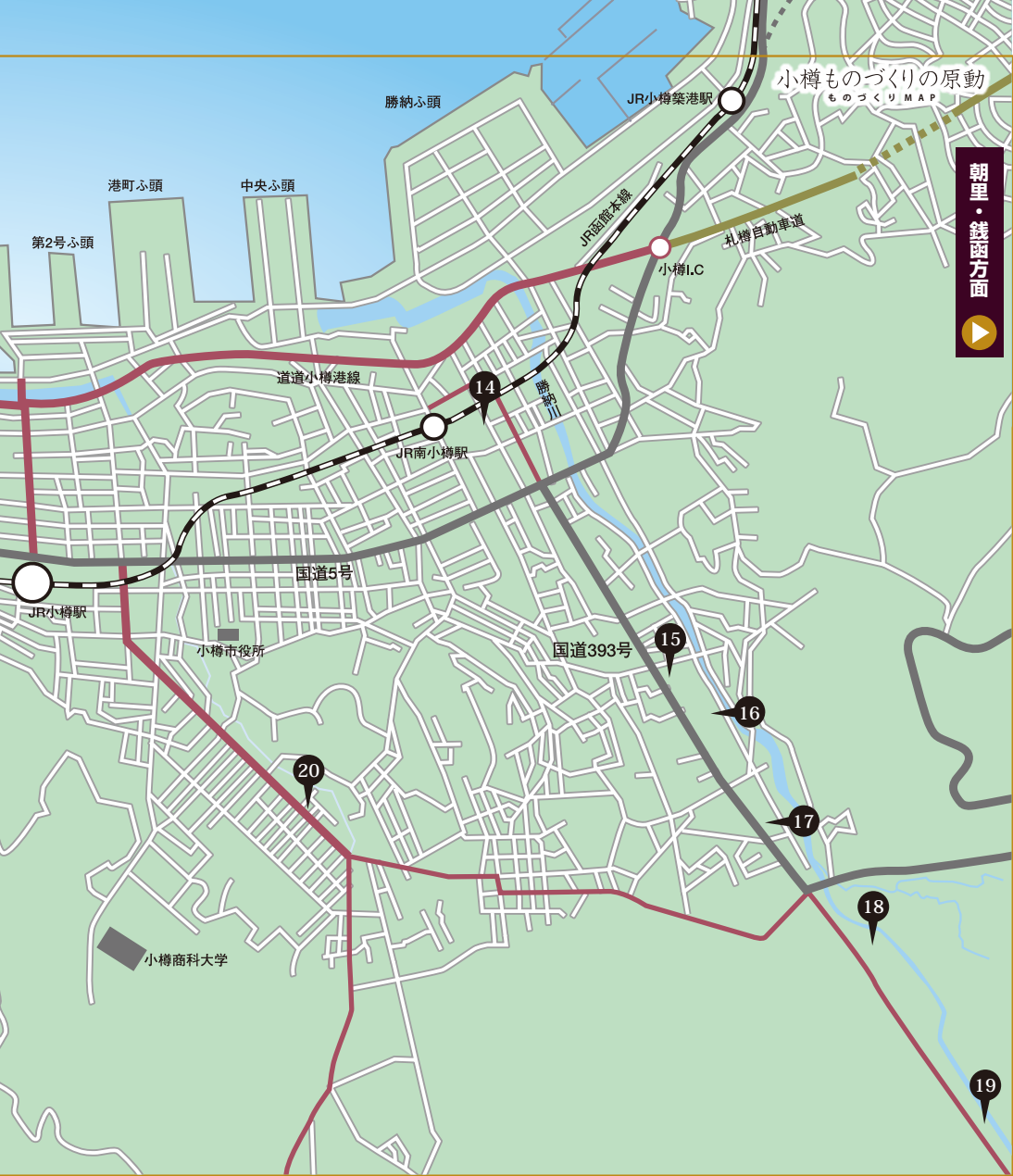
本書は、「プラスチック・ゴム関連」として、小樽市内でプラスチック・ゴム製品を製造する企業を掲載していますが、誌面の都合上、すべての企業を掲載したものではありません。

- | | | |
|--------------------------------|----------------|-------------------------|
| 01 北一化学株式会社 | 08 北海紙工業株式会社 | 15 第一ゴム株式会社 |
| 02 合同化成株式会社 | 09 協和商事株式会社 | 16 第一化工株式会社 |
| 03 日ポリ化工株式会社
小樽工場 | 10 株式会社北斗ゴム製作所 | 17 株式会社ミツウマ |
| 04 株式会社アグリバイオインダストリー
銭函プラント | 11 東洋化工株式会社 | 18 クリロン化成株式会社
北海道事業所 |
| 05 玉井化成株式会社 | 12 極東高分子株式会社 | 19 有限会社テクノ・プロス |
| 06 玉井環境システム株式会社 | 13 サンビーム工業株式会社 | 20 株式会社フジ本芳川商会 |
| 07 株式会社みちした | 14 三王ポリ株式会社 | |



小樽市のプロフィール

小樽市は、海・山・坂の起伏ある地形を有し、北海道開拓の拠点となった歴史や文化が形成された、個性あふれる港まちです。四季折々の変化に富み、北海道のなかでは寒暖の差が小さく、海洋性気候で住みやすいといわれています。自然環境が豊かで、春はハイキング、夏は海水浴、秋は紅葉、冬はスキーと、一年を通じてレジャーを楽しめるまちでもあります。近年は小樽の魅力が国内外に情報発信され、年間700万人を超える観光客が訪れます。



■位置 北緯43° 11'27"東経140° 59'40"
北海道の西海岸に位置し、隣まちの札幌は東に40km。北緯43度はデトロイトやシカゴ、トロントと近い緯度です。

■人口 135,168人(平成21年9月末日現在)
北海道の人口は約555万人。その約半分は札幌市や小樽市を中心とする道央圏に居住しています。

■面積 243.30km²
小樽市は日本海に沿って東西36.47km、南北20.39kmの細長い地形の都市です。



01

北一化学株式会社

所在地／〒 047-0261 北海道小樽市銭函 3 丁目 503-10

TEL／0134-62-7181 FAX／0134-62-6452

URL／<http://www.kitaichikagaku.co.jp>e-mail／info@kitaichikagaku.co.jp

企業の特徴

包装資材やプラスチック製品の製造・販売を行っています。インフレーション成形機で、フィルムチューブ、シート、シュリンクを製造し、印刷・製袋などの各種加工を行います。北海道は、日本の食糧供給の役割を担う地域としてますますその重要性が増しており、当社も、米、砂糖、みその容器や肥料、土壌改良材の容器、さらには水産品、林産品などの包装資材を提供することで、その一部に貢献しています。その他、日用品、工業製品などに向けた一般包装や土木建築用プラスチック資材の供給も行っています。新しい価値を持つ製品の開発をはじめ、環境への配慮など、多様なニーズにお応えし、愛するこの北海道に豊かで健康な人間と心ときめく技術が育つように心がけています。



製品



原反



フィルム成形

会社概要

- 代表者／代表取締役社長 千手 博久 ●従業員数／26 名（うち正社員 25 名）
- 資本金／1,500 万円
- 主な事業内容／合成樹脂製品の製造加工および販売
- 主要製品等／化成肥料袋、銑鹼用包装袋、結露防止シート、緩衝材、砂糖用自動充填チューブ、生分解フィルム・袋ほか
- 主要取引先／宇部興産(株)、宇部フィルム(株)、日東エフシー(株)、王子製袋(株)、北海道農材工業(株)、日本甜菜製糖(株)、住商アグリビジネス(株)、訓子府石灰工業(株)、北海道食糧産業(株)ほか
- 企業の沿革／
 - 昭和 45 年：札幌市東区において八条化成を設立
 - 昭和 47 年：社名を北一化学株式会社に変更
 - 昭和 62 年：現在地に移転
 - 平成 19 年：千手博久氏社長就任





02

合同化成株式会社

所在地／〒 047-0298 北海道小樽市銭函 3 丁目 503-9

TEL／0134-62-7247 FAX／0134-62-7117

URL／<http://godokasei.co.jp>e-mail／info@godokasei.co.jp

企業の特徴

当社は、ポリエチレンフィルムの印刷製袋加工において50年来の実績があります。食品関係の製品をメインに取り扱い、多色グラビア印刷のほか、多層フィルムの共押真空印刷も行っています。カラーコントローラー検査装置や金属探知機を設備しており、シール加工においても、内容物に合わせて斜めや円など、多様な形に対応します。また、食品添加物や工業用薬品なども取り扱っていますので、包装資材を含めた食品製造ラインのトータルプランニングを提案できます。



6色グラビア印刷機



4色グラビア印刷機



製袋機

会社概要

- 代表者／代表取締役社長 澤田 直幸 ●従業員数／41 名
- 資本金／3,000 万円
- 主な事業内容／ポリエチレンフィルムの印刷・製袋、食品添加物・食品素材卸売
- 主要製品等／多色（6～11色）印刷袋、共押真空印刷袋
- 主要取引先／キリン協和フーズ(株)、オー・ジー(株)、化成品商事(株)、KISCO(株)、巴工業(株)、三井物産プラスチックトレード(株)、MICS 化学(株)
- 企業の沿革／
 - 昭和 28 年：小樽市色内町において福田勝治氏が設立
 - 昭和 63 年：現在地に工場を新設
 - 平成 4 年：現在地に本社を移転
 - 平成 20 年：澤田直幸氏（4 代目）社長就任



企業の特徴

当社は、FRP（繊維強化プラスチック）素材のユニットバス専門メーカーとして創業し、その技術開発に取り組んできました。平成3年には、ノンフロン発泡による硬質ウレタンとタイルとの一体成形に成功し、「セレマスパネル」を開発しました。このパネルは軽量であり、断熱性・防音性に優れ、当社のユニットバスの壁材として使用しています。小樽工場は、この「セレマスパネル」を主に製造し、全国へ出荷しています。工場内にはショールームも併設しており、当社のユニットバスを実際にご覧いただけます。近年は、人工炭酸泉製造装置「シードル」も開発し、入浴環境のさらなる充実を目指しています。



セレマスパネル



セレマスパネル



作業風景

会社概要

- 代表者／代表取締役社長 中塚 伊三郎 ●従業員数／ 255 名（うち小樽工場 29 名）
- 資本金／ 4,000 万円
- 主な事業内容／ FRP 製品の製造・販売
- 主要製品等／ウレタンタイルパネル、バスルームユニット
- 主要取引先／(株)竹中工務店、(株)大林組、清水建設(株)、鹿島建設(株)ほか
- 関連会社／(株)アクア、日本バルコン(株)
- 会社の沿革／
 - 昭和 37 年 4 月：奈良県において現社長中塚伊三郎氏が創業
 - 昭和 43 年 5 月：日ポリ化工株式会社設立
 - 平成 3 年 6 月：現在地に小樽工場完成



所在地／〒 047-0261 北海道小樽市銭函 3 丁目 519-11
 TEL／011-662-6512（本社） FAX／011-662-6513（本社）
 URL／<http://www.agribio.co.jp>
 e-mail／info@agribio.co.jp

企業の特色

当社は、北海道内産農産物の非可食部分を活用し、特色ある産業の創造を目的に設立された、国立大学法人北海道大学発の農・工・医ベンチャーです。道内製糖会社などとの共同開発により、砂糖精製の際に出るビートの糖蜜（製糖工程残液）から微生物の力を活用した植物性プラスチックの製造に取り組んでいます。植物性プラスチックは人体に害がないことから、化粧品や医療用など幅広い用途が考えられ、環境面に配慮した点からも需要が増えつつあります。また、今まで廃棄されていたものを使用することにより、道内の農業振興にも貢献します。平成21年に銭函プラントが完成したことから本格的な生産を目指します。



上段
バクテリアセルロース
湿式タイプ



下段
バクテリアセルロース
乾式タイプ

会社概要

- 代表者／代表取締役 CEO 吉田 美樹 ●従業員数／9名（うち銭函プラント6名）
- 資本金／2億250万円
- 主な事業内容／農産物を原料とする植物性プラスチック素材の開発・製造
- 主要製品等／D-LA（D型乳酸）、BC（バクテリアセルロース）、PHA（バイオポリエステル）
- 主要取引先／東証1部上場メーカーなど
- 企業の沿革／
 - 平成18年4月：札幌市西区において吉田美樹氏、棟方正信氏、瀬戸篤氏など18名の有志が共同で設立
 - 平成21年2月：銭函プラント開設





05

玉井化成株式会社

所在地／〒 047-0261 北海道小樽市銭函 3 丁目 524-9

TEL／0134-62-1100 FAX／0134-62-0777

URL／<http://www.tamai-kasei.co.jp>e-mail／mailto@tamai-kasei.co.jp

企業の特色

発泡スチロールを中心とした製品の製造を行っており、主に農水産用の成型箱を製造しています。また、土木資材用では、切断加工が容易で、高い透水性と断熱性を備えた発泡ポリスチレン「タミーブロック」を製造しています。他の製品としては、プラス温度域で融解・凝固を行うことができる蓄熱材「パッサーモ」の開発を行っています。今後は、自社にて成型箱と蓄熱冷材の両方を製造している強みから、定温小口輸送用のパッケージ製品など、物流や医療の分野などにおいてきめ細かな提案を行いたいと考えています。



成型機



発泡スチロール製品



2次加工機

会社概要

- 代表者／代表取締役 玉井 充 ●従業員数／50名（うち正社員32名）
- 資本金／5,000万円
- 主な事業内容／農水産物用発泡スチロール箱の製造、
土木・建築・工業用発泡スチロールの成型、各種緩衝用資材の製造販売
- 主要製品等／発泡スチロール成型品（農産箱・水産箱）ほか
- 主要取引先／マルトマ苫小牧卸売(株)、(株)JSP、(株)ティービーパック
- 関連会社／玉井環境システム(株)、(株)タマテック
- その他／経済産業省「異分野連携新事業分野開拓計画」認定
- 企業の沿革／
平成元年4月：札幌市手稲区において玉井充氏が玉井産業(株)より分社設立
平成6年9月：現在地に新工場を新築、本社を移転





06

玉井環境システム株式会社

所在地／〒 047-0261 北海道小樽市銭函 3 丁目 524-11
TEL／0134-62-1500 FAX／0134-62-1504
URL／<http://www.tamai-k.co.jp>
e-mail／info@tamai-k.co.jp

企業の特色

当社は、スプレーマシンによるウレタン樹脂加工を得意とし、設計から製造まで一貫して行っています。発泡スチロールの成型とウレタンの吹き付けをセットで行うのが特徴であり、手加工での成型も含め、さまざまな要望に対応します。「人工浮き島」や「植生フロートシステム」などの水辺環境資材や、ウレタン樹脂コーティングによるフェンス、積雪地帯の快適な道路環境を作り出すマンホール内断熱蓋などを製造し、当社の製品はさまざまな分野にわたっています。今後も素材の持つ特性を生かし、「人まねでないユニークなもののづくり」を念頭に、多岐にわたる製品の開発を行っていきます。



小樽運河スロープ手すり



レリーフ



植生フロートシステム



マンホール内断熱蓋

会社概要

- 代表者／代表取締役 玉井 徹 ●従業員数／25 名（うち正社員 10 名）
- 資本金／4,800 万円
- 主な事業内容／ウレタン樹脂加工、圧縮成型加工、高精度加工、発泡体造形加工、金属加工
- 主要製品等／床暖房パネル、マンホール内断熱蓋、植生フロート、遊具等公園施設全般、手すり・フェンス、各種発泡製品
- 主要取引先／(株)メタルワン、三菱樹脂(株)、森六ケミカルズ(株)、日立化成商事(株)
- 関連会社／玉井化成(株)、(株)タマテック、マルイ包装(株)
- その他／(社)日本公園施設業協会会員
- 企業の沿革／
昭和 35 年：札幌市において紙器製造業として玉井當氏が創業
昭和 51 年：玉井産業株式会社設立
平成 2 年：現在地に移転
平成 8 年：玉井環境システム株式会社に社名変更



所在地／〒 047-0261 北海道小樽市銭函 3 丁目 522-8
 TEL／0134-62-7370 FAX／0134-62-7380
 URL／http://www.michishita.net
 e-mail／info@michishita.net

企業の特色

昭和33年の創業以来、一貫してポリエチレン袋などの印刷・製袋を手がけてきました。主な製品は、食品用包装フィルムとファッションバッグなどの各種包装資材です。当社の社員は、熟練工が多く、培われてきた技術には自信があります。小規模な企業だからこそできる、スピーディーな対応とフットワークの軽さが強みです。ご要望に合わせて小ロットからでも対応が可能ですので、ご相談ください。



5色印刷機



製袋機



製袋機



5色印刷機

会社概要

- 代表者／代表取締役 道下 和子 ●従業員数／15名（うち正社員11名）
- 資本金／1,000万円
- 主な事業内容／ポリエチレン袋・ビニール・セロファンなどの印刷、製袋・型抜き・特殊加工、各種包装資材販売
- 主要製品等／食品用包装フィルムとファッションバッグ等の各種包装資材
- 主要取引先／北一化学(株)、北海道サンプラス(株)、ラインバック産業(株)、北菱化学(株)
- 企業の沿革／

昭和33年 8月：札幌市豊平区において道下恵造氏が設立

平成 元年 10月：現在地に本社を移転

平成 15年 5月：道下和子氏（2代目）社長就任





08

北海紙工業株式会社

所在地／〒047-0261 北海道小樽市銭函3丁目524-15
TEL／0134-61-2550 FAX／0134-62-0303

企業の特徴

当社は、ポリプロピレンフィルムをメインに、各種プラスチックフィルムの印刷・製袋を行っています。7色グラビア印刷機のほか、サイドシール製袋機、スリッターを設備し、お客様のご要望に柔軟に対応します。主力製品である「FG野菜袋」は、野菜から出る水分を粒状にするため、袋の曇り止めに効果があります。また、生花用のフラワーフィルムやパン・菓子用袋、レジ袋、プラスチックフィルム封筒など透明性の高い製品を得意としています。



7色グラビア印刷機



サイドシール製袋機



製品

会社概要

- 代表者／代表取締役 大栗 秀男 ●従業員数／23名（うち正社員13名）
- 資本金／1,064万円
- 主な事業内容／セロファン・アルミニウムおよび各種プラスチックフィルムの印刷・製袋
- 主要製品等／FG野菜袋、レジ袋、ごみ袋、パン・菓子用袋、フラワーバック、フラワーフィルムなど
- 主要取引先／新生紙パルプ商事(株)、トーヨー加工(株)、(株)もりもと、三井物産プラスチックトレード(株)
- 資格・認定等／グリーンプリンティング認定工場（平成21年9月）
- 企業の沿革／
昭和14年12月：小樽市において株式会社東亜商會として設立
昭和20年9月：北海紙工業株式会社に社名変更
平成11年9月：現在地に移転





09

協和商事株式会社

所在地／〒 047-0261 北海道小樽市銭函 3 丁目 270
 TEL／0134-62-7602 FAX／0134-62-7779
 URL／<http://www.kyowasyoji-co.jp>

企業の特色

当社は、食品から物流まで幅広い分野の包装フィルムを製造しています。デザインプランニングから製版、印刷、ラミネート、スリット製袋までの工程を自社で一貫して行うことにより、早期対応と低価格を実現しました。平成15年には、製版ラインにおいてロボットによる無人化システムを導入し、作業効率が飛躍的に向上しました。すべての製造ラインには自動欠点検出機を装備し、不良品の外部流出を最小限に抑えます。また、世界初の水性グラビア製版システムの導入、道内初の工場内排ガス回収リサイクル装置の導入など、環境対策にも積極的に取り組んでいます。



10色グラビア印刷機セクショナル



ロボット製版ライン



ドライラミネート機



製袋ライン

会社概要

- 代表者／代表取締役社長 妹尾 龍昭 ●従業員数／79 名（うち正社員 56 名）
- 資本金／9,500 万円
- 主な事業内容／デザイン、分色、レーザー製版、フィルム印刷・加工、各種ラミネートフィルム加工、スリッター、各種製袋製造加工など
- 主要製品等／食品包装用フィルム、物流包装用フィルム
- 主要取引先／三井物産プラスチックトレード(株)、稲畑産業(株)、サカタインクス(株)ほか
- 関連会社／(株)協和プランニング&プロセス、協和化工(株)、NAPS(有)
- 企業の沿革／

昭和 37 年 8 月：札幌市西区において妹尾雅昭氏が創業

昭和 38 年 4 月：協和商事株式会社設立

平成 元年 9 月：現在地に移転

平成 7 年 3 月：東京営業所開設

平成 19 年 3 月：妹尾龍昭氏（2 代目）社長就任



企業の特徴

当社は、昭和30年の創業以来、工業用ゴム一筋に生産を続けてきました。プレス部門（各種型物ゴム・防振ゴムなど）、加工部門（橋梁用伸縮継手ゴム）、押出部門（各種ゴム紐・水密ゴムなど）の3部門から成り、お客様のご要望に応じ、多品種小ロットにも対応します。また、大小異なる5基の加硫缶（器）を設備し、熱による接着方法を取り入れています。プレス機は大小あわせて22台設備し、多様なニーズに対応できるよう体制を整えています。



継手部品



ベルト



自動成形プレス

会社概要

- 代表者／代表取締役 宮谷 明 ●従業員数／22名（うち正社員19名）
- 資本金／1,000万円
- 主な事業内容／工業用ゴム製品の製造
- 主要製品等／橋梁用伸縮継手ゴム、防舷材、農機具用型物ゴム
- 主要取引先／横浜ゴム MBH(株)、(株)ブリヂストン IPA ほか
- 企業の沿革／

昭和30年6月：札幌市中央区桑園地区において創業

昭和31年3月：株式会社北斗ゴム製作所設立

平成3年8月：現在地に移転

平成12年5月：宮谷明氏（9代目）社長就任





11

東洋化工株式会社

所在地／〒 047-0261 北海道小樽市銭函 3 丁目 285

TEL／0134-62-3636 FAX／0134-62-6610

URL／<http://www.tyk-gr.com>e-mail／info@tyk-gr.com

企業の特徴

当社は、押出成形・インジェクション成形・ブロー成形の3部門から成り、主に、水道用・暗きょ用のポリエチレン製パイプ「バイドレーンダブル管」を製造しています。このパイプは、内面が平滑で曲がりやすく流水もスムーズであることから、道内の農地に多く採用され、耕地の改良や土木用地の基盤改善に貢献しています。また、農地以外にもグラウンドや道路、ゴルフ場などに幅広く使用されています。今後も地場産業の発展のため、より良い製品を創造していきます。



パイプ押出機



ブロー成形機



MSシース



バイドレーンダブル管

会社概要

- 代表者／代表取締役社長 三浦 昭吉 ●従業員数／54名（うち正社員 48名）
- 資本金／5,000万円
- 主な事業内容／合成樹脂製品の加工・販売、水道用・暗きょ用ポリパイプの製造、土木管材関連資材および包装資材の販売
- 主要製品等／ポリエチレンパイプ、ブロー成形品、JIS一般用パイプ、一般用給排水管、暗きょ用パイプ、射出成形品
- 主要取引先／ホクレン、農業協同組合、三井物産プラスチックトレード(株)、(株)北陽、エスケー産業(株)ほか
- 資格・認定等／一般用ポリエチレン管 JIS 工場（許可番号 181037）
- 企業の沿革／
昭和 26 年 11 月：小樽市内町において佐々木博義氏が㊥佐々木商会として創業
昭和 34 年 6 月：㊥佐々木商事株式会社設立
昭和 43 年 8 月：現在地に移転
平成 21 年 8 月：三浦昭吉氏社長就任





12

極東高分子株式会社

所在地／〒047-0261 北海道小樽市銭函 2 丁目 56-1
TEL／0134-62-2111 FAX／0134-62-4390
URL／<http://www.kyokutou.co.jp>
e-mail／kyokutou@kyokutou.co.jp

企業の特色

当社は、ポリエチレンフィルムの製造からスタートし、ラミネート部門、プラスチック成形部門、段ボール部門と業務を拡大してきました。現在では、パッケージの総合メーカーとして、幅広い製品を提供しています。企画デザイン部門、製版セクションも個々に持ち、企画から印刷・加工までを自社にて一貫して行っています。原反から製品までを製造する当社だからこそ、さまざまな提案が可能です。道内農水産物を中心に、袋詰めや段ボールの納品までトータルで行えるのが強みです。お客様が何を望んでいるかを常に考え、要望に応えられるよう努力し、社会の「豊かさ」と「安全」に貢献します。



ポリエチレン製品



ラミネート製品



インフレーション工場



ラミネート8色グラビア印刷機

会社概要

- 代表者／代表取締役 近藤 晴之 ●従業員数／247 名（うち正社員 180 名）
- 資本金／1 億 6,500 万円
- 主な事業内容／ポリエチレンフィルム製品、食品包装を中心としたラミネート製品、成形品、段ボール箱の製造並びに印刷加工
- 主要製品等／ポリエチレン製品、ラミネート製品、プラスチック成形品
- 主要取引先／旭化成ケミカルズ(株)、(株)プライムポリマー、王子ネピア(株)、新生紙パルプ商事(株)、北海道中央食糧(株)、和弘食品(株)、士幌農業協同組合
- 関連会社／新生紙パルプ商事(株)
- 資格・認定等／衛生工場認定、ISO9001、ISO14001
- 企業の沿革／
昭和 40 年 9 月：札幌市西区においてポリエチレン製品の製造会社を設立
昭和 43 年 5 月：現在地に移転し、ラミネート製品の生産部門を増設
昭和 48 年 10 月：プラスチック成形品並びに段ボール製品の生産部門を増設
平成 12 年 3 月：グラビア印刷用製版部門を増設





13

サンビーム工業株式会社

所在地／〒 047-0031 北海道小樽市色内2丁目2-12 よしむら(株)内
 TEL／0134-33-0234 FAX／0134-33-0236
 小樽工場／〒 047-0006 北海道小樽市有幌町 2-20
 TEL・FAX／0134-22-0937

企業の特徴

当社は、きめ細かいサービスを身上に、お客様の要望に合わせた軟質発泡ウレタンの成型加工を行っています。製品の主な用途は、応接用椅子など家具類のクッション材、かいわれ大根や三つ葉などに使用する水耕栽培用の種床、梱包用のクッション材などです。ウレタンにはさまざまな種類があることから、衝撃吸収材やフィルターなどとしての可能性が広がり、今後はウレタンの用途開発にも力を入れていきます。



切断加工



切断加工



応接用椅子のクッション材



接着作業

会社概要

- 代表者／代表取締役 吉村 克之 ●従業員数／11名（うち正社員4名）
- 資本金／1,000万円
- 主な事業内容／軟質発泡ウレタンの成形加工
- 主要製品等／応接椅子などのクッション材、水耕栽培用の種床用衝撃吸収材、梱包用クッション材など
- 主要取引先／家具メーカー、農業協同組合、漁業協同組合
- 関連会社／よしむら(株)
- 企業の沿革／

平成 7年4月：札幌市において現社長吉村克之氏が設立
 平成 21年1月：小樽市有幌町にて小樽工場を操業



小樽工場





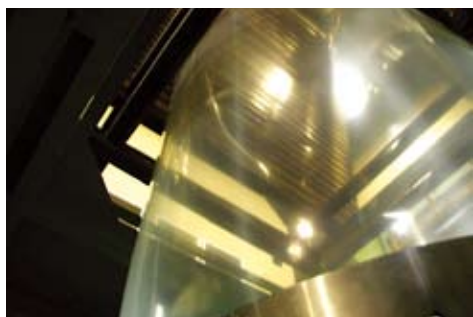
14

三王ポリ株式会社

所在地／〒 047-0017 北海道小樽市若松 1 丁目 5-5
TEL／0134-22-1687 FAX／0134-29-2837

企業の特徴

当社は、ポリエチレン・ポリプロピレンフィルムを原反から製袋まで一貫生産しています。インフレーション成形機は、水冷式と空冷式を設備し、フィルムチューブ幅40mm～2,500mmまでのサイズに対応します。「愛情を持って良いものを作る」をモットーに、当社独自の技術により、お客様のニーズに合わせた多岐に渡った製品を供給します。近年は、地産地消を目的に、道内各自治体の指定ごみ袋や、環境問題解決の一助としてカラス対策用袋も製造し、地場企業として地域の発展に貢献しています。



空冷式インフレーション成形機（最大幅2,500mm）



製袋機



水冷式インフレーション成形機

会社概要

- 代表者／代表取締役社長 井手 信治 ●従業員数／40 名（うち正社員 33 名）
- 資本金／3,000 万円
- 主な事業内容／各種プラスチックフィルムの製造・販売、
各種プラスチックフィルムの印刷・製袋加工、ブロー成形品の製造・販売
- 主要製品等／ポリエチレン・ポリプロピレンのチューブおよびフィルム
- 主要取引先／三井物産プラスチックトレード(株)、ホクレン包材(株)、北海道三井化学(株)ほか
- 企業の沿革／

昭和 54 年 3 月：小樽市奥沢において現会長井手英治氏が設立
函館工場開設

平成 12 年 8 月：現在地に移転

平成 21 年 5 月：井手信治氏（2 代目）社長就任



所在地／〒 047-0013 北海道小樽市奥沢 3 丁目 29-32
 TEL／0134-22-5161 FAX／0134-23-4340
 URL／<http://www.daiichi-gomu.co.jp>
 e-mail／info@daiichi-gomu.co.jp

企業の特色

坂のまち小樽において快適に雪道を歩くための、暖かい・滑りにくい長靴、ゴム製ブーツなどをすべて小樽の本社工場で製造しています。スエード調ブーツ「シェブリー」は、発売以来25年が経ち、モデルチェンジをして改良を重ねながら、定番商品として長く愛用されています。また、廃タイヤを原料ゴムとしたエコ長靴「イークルーシリーズ」の開発、アパレルメーカーとのラバーブーツの共同開発、介護用靴の生産にも取り組んできました。今後も、環境面への配慮として廃タイヤなどを利用した商品の開発に力を入れ、これからの高齢化社会にも対応した製品を開発していきます。



作業風景

ノルテ
ガロ G39

シェブリーシリーズ



イークルー

会社概要

- 代表者／代表取締役 浜村 光久 ●従業員数／62名（うち正社員34名）
- 資本金／5,000万円
- 主な事業内容／ゴムおよび合成樹脂製品の製造販売
- 主要製品等／長靴、ブーツ
- 主要取引先／生活協同組合コープさっぽろ、ホームック(株)、東京靴流通センター
- 関連会社／第一化工(株)
- 資格・認定等／JIS 指定工場
- 企業の沿革／

昭和10年5月：小樽市奥沢町において新興化学合資会社として浜村由太郎氏が設立
 昭和23年5月：第一ゴム株式会社に社名変更
 平成7年2月：浜村光久氏（3代目）社長就任



企業の特徴

当社は、射出成形による住宅関連部材、医療用容器、食品容器等を製造しています。射出成形機については、80tの小型機から860tの大型機まで15台設備しており、全機に取り出しロボットなどの無人省力化設備を装着、24時間対応で稼働しています。専用のクリーンルームも設備し、品質検査体制は万全を期しています。当社では、製品の企画・設計から参画し、注文通りに作るだけではなく、共同で提案していく精神が大切と考えます。成形から2次加工まで一貫して手がけ、付加価値を持った完成品を提供するために、時代のニーズに対応した新製品を開発していきます。



大型成形機 (860t)



医療用製品



換気用部材

会社概要

- 代表者／代表取締役社長 浜村 光久 ●従業員数／33名（うち正社員21名）
- 資本金／1,000万円
- 主な事業内容／合成樹脂成形品の製造・販売
- 主要製品等／住宅関連資材、上下水道用部材、工業用部材、通信機材、農業用土木資材、水産用資材、医療用部材、日用雑貨類
- 主要取引先／フクビ化学工業(株)、パナソニック電気(株)、タケヤ刷子工業(株)、堺商事(株)、三洋工業(株)、日本メディカルプロダクツ(株)ほか
- 関連会社／第一ゴム(株)
- 企業の沿革／

昭和50年4月：小樽市奥沢において浜村由太郎氏が設立

昭和55年4月：浜村光久氏（2代目）社長就任





17

株式会社ミツウマ

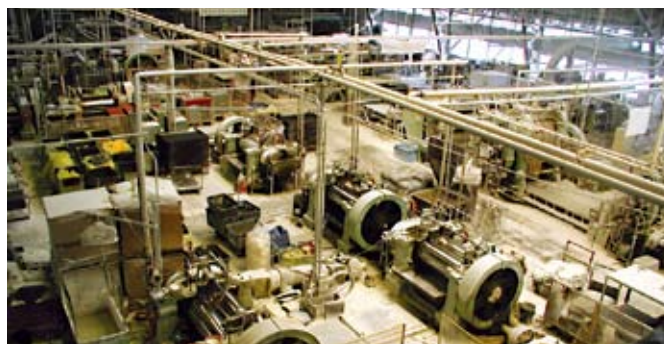
所在地／〒 047-0013 北海道小樽市奥沢 4 丁目 26-1

TEL／0134-22-1111 FAX／0134-22-1110

URL／<http://www.mitsuuma.co.jp>e-mail／info@mitsuuma.co.jp

企業の特徴

大正8年の創業以来、ゴム長靴メーカーとして大きな役割を担ってきました。昭和49年に長靴の商標であった「ミツウマ」を社名とし、現在に至ります。また、ゴム長靴のほか、塩化ビニールやウレタンの射出成形靴（静電気帯電防止靴）や、工業用ラバー製品なども製造しており、ゴム製品の総合メーカーとして北国の快適な環境づくりを目指しています。創業90周年を迎えるにあたり、「環境事業部」を立ち上げ、再生ゴムを使用した商品「エコステップ」を開発しました。素材の特性を生かしたリサイクル製品への取組を今後も積極的に行い、これからの時代に必要とされる製品の製造・販売を目指します。



工場内全景



エコステップ



工業用ラバー製品



特殊環境用作業靴

会社概要

- 代表者／取締役社長 小館 昭一 ●従業員数／203名（うち正社員150名）
- 資本金／5,000万円
- 主な事業内容／ゴム長靴の製造、工業用ゴム製品の製造、射出成形靴（静電靴）の製造
- 主要製品等／長靴、特殊環境用作業靴、建設部材、防滑材、腐蝕・摩耗防止材
- 主要取引先／北海道開発局、北海道警察、東京ファブリック工業(株)ほか
- 企業の沿革／
 - 大正 8 年 10 月：小樽市入船町において中村利三郎氏が北海道ゴム工業合資会社として設立
 - 昭和 18 年 11 月：三馬ゴム工業株式会社設立
 - 昭和 49 年 3 月：株式会社ミツウマに社名変更
 - 平成 20 年 4 月：小館昭一氏（6 代目）社長就任



企業の特徴

当社は、一度に5つの樹脂を積層させる「5層共押し水冷インフレーション法」を独自に技術開発し、強靱五層チューブ規格袋「五重もん君」、高透明五層チューブ規格袋「ウルトラチューブ」、高透明五層三方規格袋「彊美人（きょうびじん）」といった主力製品を製造しています。北海道事業所では主に「五重もん君」、「ウルトラチューブ」を製造、透明性が良く強靱性に富んだチューブ規格袋として評価されています。今後も、独創性やチャレンジ精神をもって、独自の共押し技術を開発・高度化させ、食品・医薬品・電子部品などの包装に適した高機能複合フィルムの製造・販売でトップメーカーを目指します。



機能性多層プラスチックフィルム



高透明五層三方規格袋「彊美人（きょうびじん）」



美しい真空パックが可能



高透明五層チューブ規格袋「ウルトラチューブ」



北海道工場製造現場

会社概要

- 代表者／代表取締役社長 栗原 清一 ●従業員数／120 名（うち北海道事業所 20 名）
- 資本金／3,200 万円
- 主な事業内容／共押し多層フィルムの製造・販売
- 主要製品等／強靱五層チューブ規格袋「五重もん君」、高透明五層チューブ規格袋「ウルトラチューブ」
高透明五層三方規格袋「彊美人（きょうびじん）」、フラットフィルム
- 主要取引先／凸版印刷(株)ほか
- 関連会社／南桃太郎製袋
- その他／大阪フロンティア賞の経営革新奨励部門最優秀賞受賞、
大阪市「きらめき企業賞」受賞、経済産業省中小企業庁「元気なモノ作り中小企業
300 社」選定
- 企業の沿革／
昭和 35 年 10 月：大阪市において栗原正夫氏が設立
平成 3 年 12 月：栗原清一氏社長就任
平成 6 年 6 月：北海道事業所開設



大阪本社工場

企業の特徴

当社は、プラスチックのグレー加工（溶接）をメインに行っています。ダクトやショーケースのアクリルカバー、スズメバチ駆除用ヘルメットなども製造しており、単品・特注品などの細かなご要望にも対応します。平成21年4月に、北海道立水産ふ化場が考案者となり当社が製造した「自然浮上型魚卵収容人口ふ化育成槽（TOM型浮上槽）」が実用新案登録を取得しました。この水槽は、道内の鮭のふ化場で使用されており、従来のもよりコストを削減でき、稚魚のストレスも軽減し、より自然に川へ放流することができます。今後は、より作業効率を上げ、さらに改良を重ねた製品を提供したいと考えます。



人工ふ化育成槽



スズメバチ駆除用ヘルメット



作業風景

会社概要

- 代表者／代表取締役 遠藤 繁富 ●従業員数／5名（うち正社員4名）
- 資本金／300万円
- 主な事業内容／工業用グレー加工、プラスチック加工
- 主要製品等／TOM型浮上槽、FRP造型など
- 主要取引先／(株)ミツウマ、シンセメック(株)、(株)北一硝子、大橋資材(株)
- 企業の沿革／
平成8年4月：現在地において現社長遠藤繁富氏が設立





20

株式会社フジ本芳川商会

所在地／〒 047-0034 北海道小樽市緑 2 丁目 3-14
TEL／0134-34-2255 FAX／0134-34-2282
URL／<http://www.yoshikawa-candle.com>
e-mail／f-yo@amail.plala.or.jp

企業の特色

当社は、昭和11年にろうそくの製造工場として創業し、昭和30年代から紙袋の製造を始め、現在はポリエチレンの製袋をメインに行っています。製袋機を11台設備し、洋品店向けのファッションバッグやごみ袋のほか、小樽市内の食品販売会社や工芸店などで使用される袋を製造しています。道内で、ろうそく・ろう引き紙の製造を行っているのは当社のみとなりましたが、長く培ってきた信用を大切に、サービス、そして価格において当社の製品を満足していただけるよう、日々努力しています。



LD自動製袋機オートスタッカー付



HD製袋機SP型



HD製袋機SP型スタッカー付

会社概要

- 代表者／代表取締役 芳川 雅勝 ●従業員数／39名（うち正社員20名）
- 資本金／2,000万円
- 主な事業内容／包装資材全般
- 主要製品等／ごみ袋・漬物袋・ショッピングバッグ・ファッションバッグなど
- 企業の沿革／

昭和11年3月：現在地において現会長芳川勝男氏が藤本屋商店小樽ロースク工場として創業

昭和25年5月：藤本製蠟株式会社設立

昭和35年6月：フジ本芳川商会に社名変更

昭和61年6月：芳川雅勝氏（2代目）社長就任



石狩湾新港地域 いしかりわんしんこうちいき

ISHIKARI BAY NEW PORT AREA

世界へ広がるネットワーク

石狩湾新港地域は、北海道の産業構造の高度化を図り、日本海沿岸地域や北方圏諸国との経済交流拠点として長期的な役割を担うことを目的に、国・北海道・札幌市・小樽市・石狩市・石狩開発(株)が推進する一大開発プロジェクトで整備されました。総面積約3,000haの背後地には、すでに700社を超える企業が進出し、道央圏の生産・物流の拠点となっています。石狩湾新港地域の中の小樽市域236 haにおいては、食品製造・加工や流通など各種業界の企業が操業し、中でも冷蔵倉庫群は北海道内有数の保管能力を誇ります。



横浜冷凍株式会社



東洋水産株式会社

概要 (小樽市域)

- 所在地／小樽市銭函4丁目・5丁目
- 事業主体／石狩開発株式会社(第3セクター)
- 分譲面積／工場用地総面積：236.4ha
- 価格等／分譲価格：工業・流通用地 12,000 円／㎡
賃貸価格：工業・流通用地 500 円／㎡・年
保証金は賃料の2年分
- 地域指定／工場立地法に基づく工場適地、都市計画法に基づく工業専用地域、準工業地域
- 立地条件
 - 交通／港湾：石狩湾新港
道路：国道231号その他により札幌市中心部まで15km
国道337号により小樽市中心部まで25km
J R：函館本線手稲駅まで8km
空港：新千歳空港まで55km
 - 用水／工業用水：北海道により供給
上水道：小樽市により供給
排水：北海道による特定公共下水道
 - 電力／北海道電力(株)により供給
 - 労働力／小樽市・石狩市・札幌市からの確保が容易
 - 環境／現存する防風保安林を利用するとともに、計画的に緑地の配置を行っており、環境整備を推進

銭函工業団地 ゼンバコこうぎょうだんち

ZENIBAKO INDUSTRIAL AREA

自然あふれる産業基地

銭函工業団地は、小樽市の東部に位置し、遠くに小樽の中心市街地や増毛連山を望む日本海に面する平坦地にあり、札幌市に隣接する道央圏の代表的な工業集積地帯のひとつです。地域には食料品・機械・プラスチック・流通など100社を超えるさまざまな企業が操業し、活発な交流が行われています。工業団地を縦貫する国道337号は石狩湾新港地域や札幌圏への中核の路線として、道路環境整備も充実。地域の南側にはJR函館本線、国道5号、札幌自動車道が並行して延びており、札幌中心部まで18km、小樽港まで16kmと、極めて良好な交通条件を備えています。工業団地の西にJR銭函駅、東にJRほしみ駅が位置し、ビジネスの効率を高めるとともに、従業員の通勤にも便利な環境となっています。



概要

- 所在地／小樽市銭函3丁目
- 分譲面積／工場用地総面積：103ha
- 価格等／私有地であり、地価公示価格は10,000円/㎡程度
- 地域指定／工場立地法に基づく工場適地、都市計画法に基づく工業専用地域（特別工業地区）ほか
- 立地条件
 - 交通／港湾：小樽港まで16km
道路：国道5号に隣接、国道337号が縦貫、札幌自動車道銭函ICまで1.2km、札幌市中心部まで18km、小樽市中心部まで16km
JR：函館本線銭函駅まで1.5km
ほしみ駅まで0.4km
空港：新千歳空港まで60km
 - 用水／上水道：小樽市により供給
排水：小樽市公共下水道
 - 電力／北海道電力（株）により供給
 - 労働力／小樽市銭函地区・札幌市手稲区などからの確保が容易
 - 環境／土地区画整理事業により道路、河川、公園などの公共施設整備を行い工業用地としての環境整備済



銭函インターチェンジ



銭函駅

技術革新を続けるプラスチック工業の広がり 歴史を刻むゴム工業のあゆみ

■幅広い分野で活躍する小樽のプラスチック工業

日本のプラスチックの歴史は、明治時代に米国から輸入したセルロイドが始まりとされています。その後昭和30年代には、ポリエチレンなどの多様な合成樹脂が使用されはじめ、プラスチック産業が大きく発展する契機となりました。

同じ頃、北海道においても、基幹産業である農水産業の発展とともに、食料品を輸送する際の包装資材として、商品保護・品質保持などの機能を持つプラスチックフィルムが使われるようになりました。また、小樽港が北海道の玄関口として流通拠点の一つとなっていたことから、小樽市色内町を中心にプラスチックフィルムの製袋・印刷を行う企業が次々と操業し、小樽におけるプラスチック工業の発展に大きな役割を

果たしました。

その後も、合成樹脂の加工技術が進歩したことに伴い、その種類も多様化していきました。例えば包装の軽量化を実現した発泡スチロールの登場は、小樽の水産市場などにおいて使われていた木箱を発泡スチロール箱へと転換させるなど、さまざまな産業に影響を与えました。

そのほかにも、家具や建築用資材、プラスチック容器や水道用パイプなど、さまざまなプラスチック関連製品が小樽でも製造・加工されるようになっていきました。

■小樽と関わりの深いゴム工業

小樽におけるゴム工業の歴史は古く、大正初期、小樽市入船町に「小樽ゴム工業商會」が設立され、足袋底にゴム板を張りつけたことから始まりました。これが北海道にお



昭和30年代の小樽港の様子（写真提供／小樽市博物館）

けるゴム工業の発祥とされています。

昭和25年、小樽では16もの中小ゴム工場が稼動していましたが、同年、ゴムの生産にかかる統制が撤廃された後は、合併・廃業による再編がなされ、昭和29年には小樽のゴム関連企業は8社となりました。

また、長靴などの冬季需要から建設工事中・農漁業用ゴム手袋などへと需要は次第に多様化し、それに伴い生産量も伸びていきました。

昭和30年代以降は、長靴やゴム手袋などの輸出が急激に増加し、財団法人ゴム製品検査協会の北海道支所が小樽に設置されるなど、小樽のゴム工業は北海道における主要産業の一つとして位置付けられていました。

近年においては、農漁業人口の減少やコストの安い海外製品の市場参入など厳しい環境にありますが、創意工夫を凝らした製品の開発など、小樽のゴム工業は今もなお活躍を続けています。



昭和30年代の小樽市色内町の様子
(写真提供／小樽市博物館)



昭和40年ごろのゴム工場の様子

■環境対応型企業が 時代をリードする

小樽のプラスチック・ゴム業界も他の業界と同じく、安価な海外製品との競争を強いられると同時に、原油価格の不安定な情勢や環境への対応が求められるなど、厳しい状況が続いています。そのような中でも、果敢に、そしてねばり強く挑戦を続ける企業が小樽には数多く存在しています。

独自の印刷機械を開発し有害物質の排出削減を実現する企業、植物由来の生分解プラスチック製品を研究開発する企業、あるいは、廃タイヤなどを利用したゴム製品を製造する企業など、環境面に配慮し優れた「ものづくり」魂を発揮している各企業に、これからも道内外の注目が集まることでしょう。

参考文献

小樽市史（小樽市）
小樽産業経済史（小樽市）
プラスチック製品（日本経済新聞社）
北海道の包装（日本包装技術協会北海道支部）

工業統計調査 一平成19年一

<主要項目の状況>

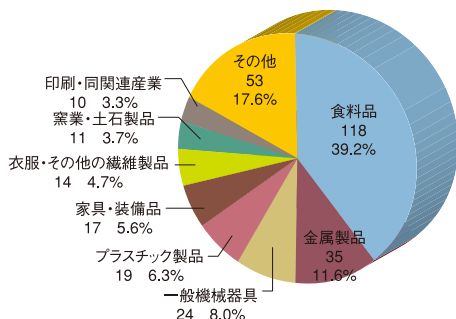
事業所数	301	北海道内 4 位	北海道比 4.5%
従業者数 (人)	8,037	北海道内 5 位	北海道比 4.2%
製造品出荷額等 (百万円)	162,141	北海道内 9 位	北海道比 2.8%

◇平成19年工業統計調査は、製造業を営む従業者4人以上の事業所を対象に、平成19年12月31日現在で実施したものです。

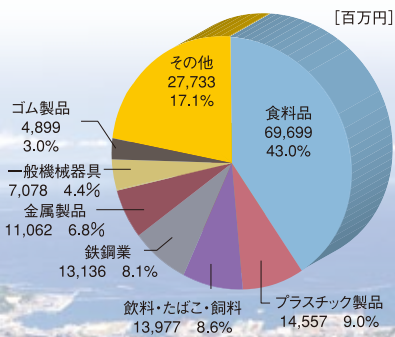
◇小樽市の工業統計 <業種別の構成比>

本市工業を業種別にみると、全ての項目で食料品が高い割合を占めています。従業者数でみると、包装資材用フィルムなどを製造しているプラスチック製品 (8.2%) が続き、長靴などを製造しているゴム製品 (4.1%) と合わせると、全体の12.3%を占めています。また、製造品出荷額等でも、プラスチック製品 (9.0%) が2番目に高い割合を占めており、ゴム製品 (3.0%) と合わせると、約12.0%となっています。

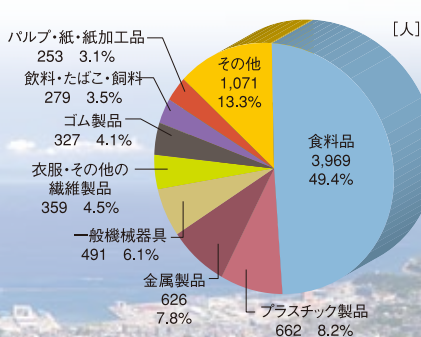
事業所数



製造品出荷額等



従業者数



北海道職業能力開発大学校

産業界の急速な技術改革に対応できる技術全般に関わる基礎的知識と、適応性豊かな実践能力を兼ね備えた人材の養成のために、昭和61年北海道職業訓練短期大学校として開校。職業訓練施設を起源とする同校は、古くから小樽のものづくりと深く関わってきました。平成12年に応用課程を新設し現校名に改称となりましたが、卒業後、小樽市内の機械・金属関連企業に就職する学生も多く、小樽における「ものづくりの人材」を輩出する役割を担っています。

また、地元企業との受託・共同研究の取り組みや年間を通して社会人向けの能力開発セミナーが開催され、企業内の技術者のスキルアップなどに貢献しています。

現在の教育訓練システムは、ものづくりに必要な科学的・工学的な知識と技術・技能を習得するための「生産技術科」「制御技術科」「電子情報技術科」「建築科」の4科からなる専門課程（2年）と、さらにステップアップした形で、専門課程や実務経験等で習得した専門的な知識・技能・技術をより高める「生産機械システム技術科」「生産電子システム技術科」「生産情報システム技術科」「建築施工システム技術科」の4科からなる応用課程（2年）で構成されています。

「ものづくりを担う人材は、ものづくりで育てる」を理念に教育訓練を行っており、卒業生は小樽はもとより、全国のさまざまな分野で活躍しています。



1



2

1.グループワーキング学習

2.FA実習システム



小樽ものづくりの原動

発行：小樽市産業港湾部産業振興課

〒047-8660 北海道小樽市花園2丁目12番1号

TEL 0134-32-4111 / 内線 263

FAX 0134-33-7432

URL <http://www.city.otaru.lg.jp>

e-mail sangyo-sinko@city.otaru.lg.jp

平成21年11月発行

取材・編集・制作／株式会社オー・プラン